

2021年 鈴鹿サンデーロードレース第4戦 参戦報告書

**激しい上位争いを制した上江洲葵要が堂々の独走優勝!
ナショナルクラスでは堀井颯大も総合4位、クラス3勝目を飾る**

10月24日(日)公式予選8:00~08:10◎天候・路面:Cloudy/Dry

#52 上江洲葵要・予選1位 #56 小田喜阿門・予選2位
#6 堀井颯大・予選6位 #17 永山陽梨・予選16位

3か月以上のインターバルを経て開催された鈴鹿サンデーロードレース第4戦。J-GP3に参戦するSRSモトアドバンス勢は、インタークラスで江澤伸也がこれまでの3戦をすべて制しており、ナショナルクラスでも堀井颯大が第1戦、第2戦を勝利するなど、好調なレースを続けている。だが江澤は9月に開催された全日本選手権最終戦のクラッシュで負ったケガのため今回のレースの参戦を見送り、ナショナルクラスの中村煌も練習走行での転倒で負傷、欠場となった。

レース当日の天候は曇り。J-GP3クラスの予選はまだ肌寒い午前8時から始まった。セッション序盤よりインタークラスの上江洲葵要とナショナルクラスの小田喜阿門が集団の前に出て積極的にタイムを延ばしていく。堀井、永山陽梨は先頭集団から距離を取ってタイムアップを狙う。

小田喜は集団の先頭で走行し、7周目にその時点でのトップとなる55秒309を記録するが、上江洲も負けじとセッション終盤の10周目に小田喜のタイムをコマ5秒上回る54秒766をたたき出してポールポジションを獲得する。これで小田喜は2番手となり、堀井はタイムを延ばしきれずに8位。16位の永山は6列目からポジションアップを狙う。

10月24日(日)決勝レース(東コース12周)◎天候・路面:Cloudy/DRY

#52 上江洲葵要・1位
#6 堀井颯大・総合4位/ナショナル1位/NSFチャレンジ3位
#17 永山陽梨・総合15位/ナショナル9位/NSFチャレンジ7位

午前11時40分、J-GP3クラスの決勝レースがスタート。タイミング良く飛び出した上江洲だったが、予選2番手の小田喜がストレートスピードを生かして1コーナーのアプローチで首位に立つと、オープニングラップをトップで戻ってくる。上江洲は小田喜の背後につけ、その後方では予選8位の堀井が猛然と追いつけると、3周目には3位にまで浮上する。永山はスタートで順位を上げるものの、混戦の中で思うように順位を上げることができず、苦しい展開のレースとなった。

5周目に入ると堀井が上江洲をかわしてトップの小田喜に肉薄する。堀井のアタックを小田喜は必死に抑え込むが、ダンロップコーナーでグリップを失い痛恨の転倒。これにより堀井が首位に上がるが、すぐさま後続に首位を奪われる。6周目には3位を走る上江洲が堀井をかわすと、7周目には首位を奪って一気にスタートをかける。

上江洲は後続とのギャップを徐々に開くと、2番手に3秒以上もの差をつける独走優勝を飾った。3位争いを繰り広げた堀井はチェッカー目前で後続に先行されて総合4位となったが、ナショナルクラスではトップとなり、ランキングも首位を守った。数台とバトルを繰り広げていた永山は15位でレースを終えている。



2021年 鈴鹿サンデーロードレース第4戦 参戦報告書

インターJ-GP3クラス:予選総合1位/決勝(総合・クラス・NSFチャレンジ)1位 上江洲 葵要(うえず あおい)15歳

『予選では自己ベストタイムを記録出来ましたが、目標のタイムには及ばず、単独走行も55秒台で、思った以上には伸ばせませんでした。決勝ではスタート直後の1コーナーで早めにブレーキをかけてしまい、後続に先行を許してしまいました。前で小田喜選手らが競っていたので、少し様子を見ることにしましたが、小田喜選手が転倒してしまったので、そのタイミングで自分の走りに集中しました。今回のレースで優勝することができて、単独走行でも54秒8というタイムを出すことが出来ました。自分自身の中では成長を感じられるレースだったと思います。今回のレースでS字の攻略の自信も持てました。サンデー最終戦のNGK杯はフルコースですが、それまでに苦手な西コースを研究し、しっかりと体を作って総合優勝を目指します』



ナショナルJ-GP3クラス:予選総合6位/決勝(総合)4位・(クラス)1位・(NSFチャレンジ)3位 堀井 颯大(ほりい そうた)16歳

『スタートは上手く行きましたが、その後数台に先行されて10位くらいにまで落ちてしまいました。とにかく前を抜くということを意識してトップにまでは立てましたが、その後1コーナーで上江洲選手らに前に行かれ、ついていくことが出来ませんでした。コーナーで前に出ても、ストレートで抜き返されるという不利な状況でしたが、そんな中でもトップに立てたのは自信につながりました。今回のレースは無我夢中で、気合だけに頼った走りになっていたと思います。もう少し落ち着いて走らないといけません。次の最終戦は長いストレートがあるフルコースなので苦手なのですが、自己ベストタイムを目指すとともに、とにかくトップに食らいつきたいです。考えて走るということを意識し、準備やトレーニングを続けます』



ナショナルJ-GP3クラス:予選総合16位/決勝(総合)15位・(クラス)9位・(NSFチャレンジ)7位 永山 陽梨(ながやま ひな)14歳

『路面が冷えた状況での予選だったので、慎重になりすぎて思うようにタイムを伸ばせず、自己ベストのコンマ3秒落ちという結果でした。決勝のスタートは上手く行きましたが、1コーナーの飛び込みで前方が見えにくくなり、そこで引いてしまいました。数台のマシンと競り合いましたが、ストレートで前に出ても1コーナーの飛び込みに自信を持ち切れず、最後まで順位を上げられませんでした。1コーナーではさらに奥まで飛び込むことを意識し、ショートカットの立ち上がりでもスピードをもっと乗せられるようにしたいです。次の最終戦は苦手なコーナーが多いフルコースですが、なんとか練習で克服して、みんなとバトルしたいです』



2021年 鈴鹿サンデーロードレース第4戦 参戦報告書

ナショナルJ-GP3クラス: 予選総合2位/決勝リタイヤ 小田喜 阿門(おだき あもん) 13歳

『予選タイムは目標に近づいたので、それは個人的には良かったです。決勝はオープニングラップの2コーナーでトップに立てたましたが、自分はS字が苦手なので、どうしても逃げ切れなかったです。5周目の転倒は、逆バンクで堀井選手に前に行かれたのでショートカットで抜きかえそうと、ダンロップにオーバースピードで入ってしまったのが原因です。直線ではこちらのほうが有利だし、ラップ数も残っていたので、得意なところで確実に抜き返すべきでした。最終戦のNGK杯では目標の(2分)18秒台に入りたいですし、絶対に勝って気持ちよくシーズンを終えたいです』



岡田忠之 Principal

『今回はそれぞれのライダーに成長が見られました。上江洲葵要はメンタル面に弱さがありましたが、今回はいいラップタイムも記録しており、自信を持てるようになったことで優勝という結果につながったんだと思います。堀井颯大はレース前は自信喪失気味でしたが、レースウィークを通して持ち直してくれました。決勝でもトップにも立つなど、次につながるレースだったと思います。転倒してしまった小田喜阿門も積極的に攻めていましたし、着実に成長を見せています。永山陽梨は(開幕戦の)右足のケガが完全には癒えておらず、まだ痛みが出ているようです。最終戦までには時間もあるので、しっかりとした身体のケアが必要です。中村煌は今回ケガをしてしまいましたが、彼もキレのあるいい走りをするライダーで、レースをうまく組み立てられれば、十分にトップ争いができる実力を持っていますから、やはり治療に専念し、早く復帰してほしいと思います』

